

第4回 中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会会議録

○ 日 時

平成25年2月8日（金）午後3時～午後5時15分

○ 場 所

中野市豊田支所2階大会議室

○ 出席者

【審議会委員】

小島哲也会長、清水正副会長、下川昌平委員、太田智明委員、小林健一委員、小島佐和子委員、伊藤勇委員、酒井美智子委員、高木涼委員、湯本美奈子委員、青木幸子委員、北原新一委員、柴垣顕郎委員、古川今朝治委員、湯本一委員

【市】

横田教育次長、荻原学校教育課長、杉本学校教育課長補佐、大沢副主幹、千田主査

○ 会議内容

1 開 会（15:00）

副会長：それでは第4回中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会を開催させていただきます。始めに会議の成立についてご報告申し上げたいと思います。ちょっとこの前よりもこじんまりとした感じではありますが、現在のところ委員が25名中16名の委員さんが出席の予定ですが、後ほど遅れて。両伊藤さんですね。おいでになると思います。おいでになると考えますと、25名中16名の出席ということでございます。過半数に達しておりますので、会議は成立致します。そのところですが、2名お見えになられなくても過半数に達しております。13名が出席すればいい訳ですから、会議は成立致します。それでは小島会長の方から開会のご挨拶を申し上げますが、その中で本日の会議内容の推進の方向について触れていただきまして、ご挨拶をお願いできたらと思います。宜しくお願いします。

2 会長あいさつ

会 長：会長の小島です。どうも御苦労さまです。外が吹雪いてまいりましたけど、今日も予定どおり2時間ということで審議会を進めてまいりたいと思います。今日、第4回目は、前回の審議会での終盤である程度予定を立てました。会議事項は今日お配りをした次第の中にある少子化時代における学校教育のあり方についてというテーマで、グ

グループに分けて討議しよう。それで、それをもとに今後のより具体的な話し合いの種、個別のあるいは具体的なテーマを見つけて、今後の審議会の中で検討していけばいいのではないかとということで確認をさせていただきました。それにあたっては、事務局から用意していただいたこの中野市の総合計画、基本構想と後期基本計画という冊子を時間のある中で目を通していただきたい。キーワードは少子化時代ということでご案内いただきましたが、今日、今まで以上に深まった意見交換ができればと思いますので宜しくお願いします。残念ながら参加者が、前回までと比べれば少なめですけれど、討議をするにはいい条件なのかも知れませんが宜しくお願いします。

古川委員：少なすぎると思う。

会 長：少なすぎますかね。

古川委員：会長、どういう理由で皆さんは欠席なのですか。体調不良ではないですよね。

会 長：それだと我々も体調不良になりそうな。確か、校長先生方は何か重要な会議があって招集されたようです。そこまで私はつかんでいる訳ですけど。何がご説明ありますか、補足説明など。

事務局：今のことがあるので説明申し上げます。校長会から推薦いただいた校長先生については、県の招集の会議がございまして重なってしまって欠席ということでございます。それからご不幸で1名欠席。それから、それぞれご用事があって欠席という方でもございました。以上です。

会 長：古川さん宜しいですか。

古川委員：そのようなことが分かってこの日を設定したんですか。設定の基本を聞きたい。

会 長：いや。急でしょう。前回、分かっていた訳ではないと思います。もちろん。前回、調整してこの日で大丈夫だということで決めたんですけども、恐らく皆さんご存じのように結構。あまりしゃべらない方がいいのかも知れませんが、県の教育関係のいろんな出来事がありますので、その関係だろうと想像しますが。次回は皆さんバシッと揃うんだろうと思うんですけども。期待します。そういう訳でちょっと少なめですが、本日の会議を進めていきたいと思います。それで、まずお手元の資料、配布されているものをご確認ください。その中に第3回審議会、前回の意見に対する回答ということで、委員の皆さんから発言があった質問とか疑問とか、これに対して資料とか回答がまとめられております。①～⑤までありますが、確認していただければと思います。事務局の方で用意していただいたものですが。宜しいでしょうか。はい。その関連の資料はホッチキス止めであります。平成21年度、22年度、23年度と教育費の資料になっております。そして、今日、グループ討議をするにあたって大きなテーマは、先ほど言いましたように少子化時代における学校教育のあり方についてということで、ご案内もさせていただきましたが、グループをどういう分け方にするのかということと、それからグループに分かれてどんな話し合いを、方法をとればいいのかということ。時間のスケジュールをちょっと簡単に私の方から説明をさせていただきます。

きます。今、1人いらっしやいましたか。そうしましたら、3グループに分かれて分散した形の討議をしていきたいと思います。

事務局：資料をお配りしてよいですか。

会 長：はい。お願いします。

柴垣委員：すみません。ちょっといいですか。先ほどの添付資料の回答が、前回のと今回は違う内容で回答されていると思うんですけども、これは教育委員会での対応なんですか。

会 長：内容が違うということですか。

柴垣委員：前回、配られたのがありますよね。回答が。

会 長：前回の回答は①～⑤までありますけれども。

柴垣委員：両方とも教育委員会としての回答なんですか。誰の回答なのか。

会 長：ちょっとお待ちください。この全てに対してのご質問ということで。前回の配布された回答というのが、タイトルが提出された意見書(質問)に対する回答。これですよ。これ自体も署名がないですね。

柴垣委員：誰の回答なんですか。

事務局：いいですか。お答えします。前回と今回お配りしたことについても、この審議会の中でお答えを申し上げたものであります。それで、お答えが途中になっていたものがありましたので、事務局に求められた質問に対してお答え申し上げたものです。言われるように出どころが書いていないので、この次からは入れるように致しますが。

柴垣委員：そうすると全くおかしくて、事務局に質問したものではないと思うんです。前回の回答に対する質問は各委員から出ているんですけども、回答がこの審議会の事務局レベルの回答ではない訳ですよ。いったいどういう責任でこれを回答しているかが全く分からないのですが。この審議会自体は教育委員会からの諮問を受けて議論する場ですが、その中で出た疑問は事務局内部で答えることができない、多岐に渡っていると思うんですが、今後、この審議会の議論が教育委員会の議論にどう反映されていくかが。それはちゃんと教育委員会の責任で答えなければいけないのではないですか。横田さん、今日はこの審議会の事務局の立場もあれば、教育委員会の一員という立場もあって使い分けも難しい気もあって、ちょっと同情はするんですけども、そこところはわざわざ市が外部の審議会を設けて、そこで議論をしている訳で、そこはきちんとしていただきたいと思うんですけども。

会 長：柴垣さん、具体的に前回の回答が①～④そしてということで、並んでいますよね。⑥、⑦、⑧まで。どれが今、ご指摘のご心配なんですか。

柴垣委員：例えば、特に前回の質問の①～④の中で、教育論を述べる委員会ではなく、実務的事象を誘導するための会議と認識しているが、勘違いであるか、否かとありますが、これは事務局レベルで曖昧にする問題ではないと思うんですね。

事務局：はい。お答え申し上げます。前回、回答として申し上げた①～④につきましては、初回の時に会長と教育長がこの会に出席させていただいて、お答えを申し上げたとおり

でございます。統合についてどうするかについては、審議会の答申を受けた教育委員会が今後検討していくというのは、一番最初の時に出席させていただいて委員長と教育長で答弁申し上げたものでございますが。

柴垣委員：だったら、この回答書は教育委員会の回答と受け取ればいい訳ですね。

会 長：まとめているのは事務局でありますので、このことについては委員長と教育長で答弁させていただいておりますが。

柴垣委員：この回答は誰が責任を持つんですか。

事務局：会長さん、よろしいですか。

会 長：はい。

事務局：事務局にということで求められたものについて、文書で回答申し上げたものであります。

柴垣委員：この質問は全部、この審議会の事務局への質問だという位置づけなんですか。

会 長：会長としてはそんなふうに私は理解をして、事務局の方でこれをまとめていただいたと理解しておりますけれど。

柴垣委員：そもそも論になってしまうんですけども、この審議会の事務局というのは、この審議会で出た意見を市へ持っていく立場だと思うんですね。答える立場ではないと思うんですよ。この審議会の一員なのですから。そのところは、あくまでもこの審議会の一員としての自覚を持って行動していただきたいと思います。

会 長：それは、結構微妙ですね。審議会の中で出てきた質問に対して、中野市の例えば教育委員会なりの資料が必要だ、教育委員会以外の資料が必要だといった時に、事務局経由で出していただくということが今回もあった訳なんですけれども。

柴垣委員：そういう性格の質問もあると思うんですけど、先ほど横田さんが答えられたように、前回、教育委員長がご発言しましたというふうな答え方をすることから考えても、教育委員会が答えるべき質問も含まれていると思う。そういうのはきちんと教育委員会の責任で答えていただきたい。今後はそうしていただければと思いますが。

会 長：教育委員会の立場できちんと答えるというのは、どういう形をとれば宜しいですか。

柴垣委員：少なくとも署名をした回答になっていて欲しいなと思います。

会 長：いかがでしょう。いかがでしょうというか、事務局はそれで宜しいですか。私もそれは望むところですけども。確かに曖昧なまま教育長が回答したんだよということにならないように。はっきりさせておけばいいですよ。そうしましたら、どうしましょう。この回答書そのものは、今のご意見を参考というか受け入れて、署名入りというかこれは誰の回答なんだということが分かるような形で、もう一回用意すれば宜しいですかね。

柴垣委員：そうしていただければ安全ですね。

会 長：それは、私、会長の立場としてもそうすればいいだろうと思いますが、副会長さん、いかがですか。

副会長：はい。

会長：それではそうさせていただきますが。他にご意見ありますか。はい。なければ事務局宜しく願います。

事務局：進めていただいて。

3 会議事項

(1) 少子化時代における学校教育のあり方について(グループ別による討議)

会長：はい。それではグループ討議です。そして、名簿をこちらで用意したものがああります。15人ですかね。現在、15人いらっしゃいます。3つのグループに分けて、第1グループ5名、第2グループ6名と書いてありますが、伊藤さん、お一人欠席の状態ですので、ここも5名です。3グループ、5名ずつのグループを合わせて15人ということで、分かれて討議をしたいと思います。グループの割り振りは今日はこれでやろうと。次回はもっとたくさん、校長さんも含めてやっていければいいなと思うし、4月以降はどんなメンバーか見えてこないんですけど。いずれにせよ、今日はこれでやってみたいと思うんですが、各グループでどういう内容で話をさせていただくかというのは、グループにお預けします。大きなテーマはもちろん少子化時代における学校教育のあり方についてということなんですが、学校教育というのは子どもの教育というふうに考えていただいてもいいかなと思うんですが。それではそのあり方を考える時にどういう視点からか、どういう立場からかというのは、きっとグループの中で位置づけがちょっとずつ違ってくるのかも知れませんが、それをまず話し合っていていただいて、それでは自分のグループはこんなふうな話で、テーマで今日、話し合いをしましょうということで、進めていただきたいと思います。時間は実はそんなにありません。今日は5時までということで用意をしていますので、45分で話し合いをしていただいて、そして、残り15分、合わせて60分、1時間なんです。15分で自分のグループがどんなテーマで、どんな話し合いをしたのか、結論はこうだという話ではきっとないだろうと思うんですけども、でも一応グループの中ではこういう共通理解ができたとか、こんな課題が出てきたとか、次回、こんな話を是非、踏み込んでやりたいとか、まとめをリーダーの方に発表していただきたいと思います。ということは、リーダーを決めていただくことも、最初に必要になってくると思うんですが、宜しいでしょうか。およそ45分の話し合い、そして残り15分でグループのまとめを発表していただくというやり方です。それで、話し合いをするにあたって、少し最初に工夫をしたいということで、自分の意見をまとめた付箋を事務局の方で用意していただいたんですが、付箋に書いて、まずまとめてからだと思うんですが、ちょっとご説明いただけますか。私自身は大学の教室で、少人数で授業をやっている時に少し慣れてはいるんですけど。今日はどんなふうなやり方をするかをご説明いただけます。

事務局：それではご説明させていただきます。熟議、ワークショップ形式という名前がついているとは思いますが、皆さんのところへこういった付箋をお配り致します。ご自分の考えをいくつでも付箋のところへ書いていただいて、それが話し合いの45分の中の何分とるかについては、各グループでお話し合いいただきたい。その後、自分の意見をこの大きな模造紙のところに出しながら意見を言っていただいて、最後、まとめという時間が15分ありましたので、出てきた意見を大きなジャンルというか、意見ごとにまとめていただいて、グループの大きな意見として出していただくと。そのような形式でございますけれど。宜しいですか。宜しくお願いします。

会長：先ほど私が話をした時間繰りなんですけれども、45分かかったその後の15分はグループ内でまとめるための時間ですよね。その後、30分、およそ30分を10分ずつに分けて各グループ発表していただくと。討議、まとめそして発表というふうにやりますけれども。宜しいですか。同じ部屋でやりますので、そろそろ時間ですよというふうな案内はこちらでやりたいと思います。会長、副会長、小島と清水さんの2人は各グループに入ってますけれど、全体の様子を見聞きたいので、隣のグループへ移動するかも知れませんが。宜しくお願いします。何かご質問ありますか。

古川委員：この部屋で一緒にやるのですか。

会長：はい。あまり大きな声でやるとノイズになるかも知れませんが。ちょうどいい部屋が3つもあればいいんですが、そうはいかないのでここで分かれて。これは机を配置し直すんですよ。ということらしいです。宜しくお願いします。

(準備)

会長：ちょっとご案内します。今、3時30分です。あと1時間、4時30分までにお話し合いとまとめを宜しくお願いします。

(グループ討議)

会長：いかがでしょうか。今、4時15分ちょっと前です。予定では4時30分までということで。そろそろ討議の区切りをつけて、まとめに入っていただければと思います。

(まとめ)

会長：はい。時間になりました。予定の時間がきましたので、各グループの方はこちら側へ。第1グループから北原さん。

北原委員：それでは第1班から。非常に短い時間でなかなかまとまりにくかったんですけれども、内容についてこんなふうになりました。少子化に伴うある種の懸念というか、問題点

はどういうものがあるかという、大きく分けてやっぱり通学その他の安全面があります。それから少子化に伴って地域、学校との地域の関係。地域の問題というのがやっぱり出てくる。それから子どもの育成、子どもサイドから考えての子どもの育成という問題もある。まず、安全というのはどういう問題があるかという、ご存じのように、私たち子どもの頃は集団登下校というのがありまして。ですが、ご存じのように少子化になりますと、どんどん人が減りまして、場合によっては一人で通学しなければいけないというような事態があるということは一つの問題です。それから子どもの育成についてはどんな問題があるかという、子ども、少子化になりますと当然のことながら学力の低下があります。それから逆の見方をすると、やっぱり少子化というのは、ある意味では、逆に子ども一人に対するケアの時間がとれる。今まで先生も見きれなかったんだけど、地域との関係も良くなるという見方もあります。一つは少子化というのは当然のことながら、今まで100人いた生徒が50人になれば、先生の数も半分に減らさなければならない。半分に減らすということはどういうことかと言いますと、先生の雑用が増える。やることは一緒ですけれども、やはり先生の雑用が増えてしまうというような問題があります。地域との問題はそういうものがあるかと言いますと、やはり地域と家族あるいは場合によっては、少子化になりますと、当然のことながら家族の中での、例えば子ども一人というような場合、旦那さんが働きに出ているとします。そうすると、最近ではカプセル親子みたいな話があります。母と子だけのこと。ですから視点が随分、こう狭くなっちゃうんですね。狭くなるということはどういうことかと言いますと、やはり、今回、いろいろ社会問題がありまして、いじめとかいろんな問題が出ています。そういった問題についても少子化の一つの影響になるのかなど。あるいは、当然のことながら、地域というのは村まつりとかそういう子どもたちが一緒に参加できるようなイベントがありますけれど、そういうのが出来にくくなる。ますます地域と学校がやはり疎遠になってしまうのではないかと。ということで、こういう3つにとりあえずは。それでは、なかなか時間がなかったんですが、この中でどんな打開策までとはいかないんですけど、どんな考え方ができるか。これをなんとかクリアーできる為にはどんな考え方があるだろうかという話を、それぞれ青い付箋へ皆さんに書いていただきました。例えば安全面、通学上の安全面でありますけれども、当然のことながら、今いろいろ資料が。何キロ以内は歩けとかいろいろありますので。もっとやはり少子化というのは安全面を考えるべきではないか。それから地域の人たちの見守りと言いますか、通学時は、若干のご担当の方が登下校の時には若干見守っていただいていますけれども、これも大変なことなんですね。こういったものもやはり強化すべきではないか。それから子どもの育成に関しては、学校がだんだん小さくなってしまふ。そういう意味では、先ほどから言っていますように、学力の低下とかいろいろな懸念がありますけれども、もっと学校間の交流みたいなものが必要である。学校間の交流というのは、例えば、今でも音楽会とかそういう

ものはやっておりますけれども、もっと授業の面でも交流できるのではないかと、あるいは、先生も先ほどから、第一回でもいろいろご指摘がありましたけれども、専門外で自分は英語が得意じゃない。見よう見まねで下手に教えているという先生がいたら、その先生も場合によってはA校からB校へ行って、教えるのも一つの手ではないかと。そうすると生徒間、それに伴って生徒の交流もできるのではないかと。それから特に日本はそうなんですけれども、最近、少子化になると先生の雑用が増えるんですね。先ほど言いましたように100人が50人になれば、当然、今まで10人の先生が例えば5人になる。ご存じのように雑用という学校に必要なことは全部ある訳です。比率がどんどん増える訳ですね。そういう意味でもっと雑用は、例えば地域にはOBの方とか我々年寄りというか、専門を持っておられる方、日本でもそういうところをいろいろ検討されておられる地域もありますけれども、そういったOBの方、年寄りでもいいのですけれども、いくらでもそういった方を活用するというのも一つの手ではないか。もっと先生が少子化に伴って授業、要するに生徒との教えるということに対しての時間が割けるのではないかと。当然のことながら、教育予算をもっと。日本はOECDなんかを見てもかなり低い方なんです。いわゆる児童一人当たりの教育費というのは、OECDの中でもかなり低い方です。もうちょっとこれは政府の問題かも知れませんが、確保していく必要があるのではないかと。それから若い人が子どもを産んで、もっと子どもたちを増やす施策。長野県でも見られるのでありまして、たまたま一人の委員の方がおっしゃいましたけれども、乳幼児に対する医療費の窓口負担をゼロにすれば、若い人が逃げていくことはないであろうと。若い人が、どんどん中野から逃げ出すことがないようにしなければならない。逆に呼び込まなければいけないのではという話がありまして。地域の問題では学校のオープン化と言いますか、学校の授業参観でも、たまたま私、高丘ですけれども、高丘では今週いっぱい、皆さん参観に来てくださいというような。もっと先生の方も一歩地域の方へ足を踏み込む。逆にそうすると、もっと地域の方との連携がうまくいくのではなかろうかと。そういうような観点から、もっと地域と先生方が連携を密にできるような関係が必要ではないかと。それから中野市というのは、ご存じのように大変に風光明媚なところでして、課外活動ということを利用していろいろやられているみたいですが。もっと教室で学ぶことではなくて、自然とかあるいは体験学習とかいろんなやり方が最近流行っております。そういったことをもっとやれば、もっと豊かな個性のある子どもたちができるのではないかとということも一つの考え方としてあります。そういったことで、地域のイベントとか行事とかということも一つの考え。とりあえず今回はこの3つについてまとめてというか、まとまらないのですけれども。折角、これだけいろんな方が、いろんなお立場の方がいらっしゃいますけど、やはり地域と学校と子どもという関係が、どうやったらもっと連携が密にできるだろうかというようなことが、次回のテーマになるか分かりませんが。もし付け加えることがあったら。大丈夫ですか。以上で

ございます。

柴垣委員：今のようにあまり整理された議論ではなくて申し訳ないのですが、私たちのグループが出した内容を簡単に紹介します。ピンクがたくさんあるんですが、これはほとんど湯本さん一人で書かれたものですが、出す人ばかりが多くて書く人がいなくて。印象としては、5人だと話しながら書くというのがどうしても難しく、どうしても書くだけの立場になってしまうので。まず、少子化時代における学校のあり方ということで、すぐに統廃合はどうだとかそういう問題にはいかずに、少子化に伴ってどんな問題が起きているかというのが、いろんな人から発言が出ました。ちなみに大多数が学校関係者だったので、今の学校の現場がどんなふうになっているかを保育園、中学校などから様々な意見が出ました。少子化時代がいろんな影響を子どもたちに与えている。まず、子どもたち一人ひとりに対して手厚くなっているという現状があります。これが必ずしもいい方向という訳ではなくて、逆に少子化になって親の期待が高くなってしまって、子どもに集中してしまうことが、かえって教育のあり方を歪めているのではないかという指摘も出ました。統廃合に関わる意見も出たのですけれども、まず、学校が小さくなってクラスがクラスだけになると、固定化という問題があるという指摘がありました。クラス替えがないと、固定した関係のまま、変わるきっかけを持たずに卒業までにいってしまうという弊害が指摘されました。学校の持っている大切な機能の一つで、集団性、集団化というのがあって、これもあまり小人数になってしまうと生かされないのではないかという指摘もありました。だいたいそんなところなんですけれども、それぞれ教育についてのかかり掘り下げた話が多くて、特に絞り込んだ話というのはあまりなかったんですけれども、この審議会の中では、市の考える教育のあるべき姿と関わりあいながら統廃合の話は行われるだろうから、少し市としてはこんな方向を考えているという、やりとりをしながら進めていった方がいいのではないかという意見も出ました。全然まとまったいい紹介になっていないと思うので、何か付け足しとかありますか。以上これで終わります。

青木委員：今、まとめてくださった方が学校の方へ行かれてしまって、頭の中にどう発表するかということがないままで発表しなければならないという。訳が分からない発表になるかも知れませんが。私たちのグループは、なかなかまとまっていくということにはならなかったんですが、最終的にこのことだけはみんな確認できたなということは、中野市の子どもたちを社会に出てもたくましく生きていける、そういう子どもたちにしていきたいな。それについてはグループみんな同意することです。それでどうしたらいいかということでいろいろ意見が出たんですが、これが全然平行線でもって。少人数でもいいじゃないか、それでもそういう子どもを育てていかれるよという意見。それから小人数ではなくて、ある程度の人数がいる中で、そしてその中で社会性を身に付けたり、いろんな意見を聞いたりして、そんな中でこそ、そういう子どもになっていくんではないか。そんな2つの意見が出まして。そんな中でいろんな話し合いが

なされたかなと思います。少人数であると一人の子どもを多くの目で、力で育てるために、多くの教員があまり関わらなくなってしまう。人数が少ないと教員が少なくなる。いろんな先生から見られるということが、そういう機会が失われてしまうのではないかというようなことをおっしゃっている方もいらっしゃいました。それから一人の子どもへの学習機会という点で、少人数であればいいのか、多数であればいいのかという。ちょっと曖昧ですけども、小規模の学校と大規模の学校ではここら辺が違うんじゃないか。同じ中でなされることはないんじゃないかな、ちょっと不平等なところがあるんじゃないかなという意見も出されていきました。先ほど言った中野市はどんな子どもに育てるのかというところ、先ほど話したとおりです。たくましい子どもを育てていきたいんだということ、それもここに書いてはありますけれども。そんなことぐらいしか私言えませんが。いろいろと小規模の学校の苦勞ということもお話いただきました。以上です。

※参考資料(模造紙及び付箋の内容)

1 班

少子化に伴う懸念

◎安全

- ・通学路の編成と小中一貫校、通学バス
- ・スクールバスの増加
- ・地域の人たちの見守りが必要
- ・今までの地域割との違いがどうなるか
- ・集団通学が困難になる
- ・少人数では出来ないスポーツ、通学児の安全

◎子どもの育成

- ・先生方が授業に集中できることが大切ではないか
- ・学校間交流授業の強化
- ・学力の低下(競争意識の低下)
- ・長野県や隣接する市町村がまだやっていない少子化対策をすることで、他の市町村から子どもを抱えた家族が中野に移住してもらえるチャンスでもある。例：乳幼児医療費窓口負担ゼロなど
- ・少子化は大きなチャンス。地域も学校も一人の子どもに深く関わることができる。
- ・教育力、保育力、子育て力の活力が減退する。
- ・先生の雑用をOBの方に代る
- ・他人を見習うこと、すべての事に関心を持つ教え方
- ・教育予算の確保
- ・これまでの学校の伝統的システムを時代の変化に合わせて改革する

- ・少子化に合わせて公共の資源や人材、金を削ることが大きな問題
- ・小中学校一貫校化

◎地域の問題

- ・中野市の山間地域の豊かな自然を利活用する工夫を
- ・学校を利用した地域活動の活性化、様々な地域のイベント・行事を学校単位で行なう
- ・地域、家族間のつながり、コミュニケーションの希薄化
- ・学校と地域をつながりをもっと大切にできないか
- ・子育て支援センターや子育て支援機能を持つ保育園等を増やし、一時保育、日曜保育、託児所なども増やす
- ・孤立家族、孤立親子の増加と母子のカプセル化の深刻化
- ・科野地区では25年度一人で学校まで1.5km、一人は1kmで山道、近所に友達はいない
- ・子ども達の遊びに親が送り迎えをするから、早く地域を超えなければ
- ・適正規模とは児童生徒の健全育成の場でもある
- ・就学前教育から小学校に進学をする上で、子ども同士の仲間のつながりが少なくなる
- ・地域としての特性はどうなるのか
- ・子どもとの関わり、ボランティア活動の活発化
- ・村祭りができなくなる
- ・若い人の暮し易い地域へ

2班

- ・少子化による期待の高さの弊害
- ・集団性の大切さ、切磋琢磨し競争が必要
- ・少子化→すぐに適正規模→さまざまな問題
- ・現実にぶつかっている話
- ・適正規模の話では固定化
- ・20+22人クラス…阿部知事効果
- ・1クラス40人だと死界ができるが20人だと固定化する→1学年3クラスは必要(30人前後)
- ・キーワードは”手厚く”
- ・人数が減ると環境も小さくなってしまう
- ・学校の都合：競わせる画一的、単一の目標→少子化になったのにも関わらず変わっていない
- ・個性的、多様な教育、個と集団をどのように捉えるか
- ・日本の社会の厚みがない→少子化の影響もあるのでは？
- ・子どもへの関心、期待→最短で成績←子どもに求めてしまうのでは？
- ・興味関心を持たせたい(幼児期)→小学校入学になると字は？たし算は？になる
- ・子どもの声が聞こえない、グラウンドで遊ばない
- ・53人を新任で担任、中野小：子どもの数は減ったのに教員数は増えた

- ・学校、幼児教育、地域、それぞれが抱える問題点の洗い出し→豊かな学校教育へ
- ・求められている子ども像はない
- ・少子化時代→手厚く育てられるのでは？→逆行するようにいじめ
- ・社会の変化が子どもの変化：特別支援、多動児、障害児増→保護者も→教員を手厚く配置
- ・目指す教育内容…理念、方向性素晴らしい
- ・教育の質、維持→一学年一クラスでは？(家庭化)せめて二クラスに
- ・集団生活→社会性を学ぶ→学校教育はクラス編成ができるように
- ・少子化時代に思うこと：私立の厳しさと公立の甘さ、子どもの環境の変化
- ・求められる教育 - 幼稚園から認定子ども園に
- ・携帯→変な人(?!)しか採らない、順応性のない人→どのような人間像を育てるか
- ・学力はつけなくても良い、日本は勉強が嫌いな子が多い→勉強が好きになる、学力をつけてほしい
- ・指針が出る、説得力があるか
- ・学校とPTAの関係
- ・休み時間の歓声がない
- ・24年前と比べて元気がなくなっている
- ・私立と公立を自由に選べたらどうだろうか
- ・固定化の弊害

3班

- ◎一人の子どもへの学習機会・人材・お金の均等
 - ・市政から考えると財源の適正配分も公平に行わなければならない
 - ・子ども達全てが同じチャンスの基で教育を受けさせる環境にしなければならない
- ◎少人数であると
 - ・少子化の中での学校教育のメリット、デメリット
 - ・最終的には、メリット、デメリットを数値化し、第三者(市民)が納得できる結果にした方が良い
 - ・一人の子どもを多くの目、力で育てるためには多くの子に多くの教員
 - ・小集団から大集団へのギャップ、デメリットをメリットへ(小学校から中学校へ)
- ◎中野市はどんな子どもを育てるのか
 - ・学校教育とは日本の将来像をつくるもの。規模の問題ではない。中野市は教育のバックボーンを樹立しなければならない。密な議論をすべきである。
 - ・地域性を生かした中での個性を大事にした丁寧な教育は欠かせない
- ◎社会でたくましく生きるために
 - ・グローバルな世界で生きていく子どもをどう育てるか
 - ・コミュニケーション力や社会性を育てるためにはある程度の人数は必要
 - ・一人一人の育ちを認めた上での社会で生きれる育ちを保障する教育

(2)その他

会 長：はい。ありがとうございました。そうしましたら、そのままの席でこの後、まだ予定の閉会時刻まで、まだ10分ありますけれども、残りを進行させていただきます。このまとめ自体はメモその他、我々の方で集約して議事録と一緒にお示ししたいと思います。それを踏まえて次回、もう少し掘り下げたというか個別の話し合いをしていただく必要があります。次回もそれからその次も何回か重ねてやりたいと思いますので、こんな話し合いはどうかということをご提案させていただきたいと思いますが、宜しいでしょうか。

古川委員：会長。集約というのはどういうことか。基本だ。

会 長：今、各グループ3組で今日、お話をいただきましたよね。それで、同じような話題ももちろん取り上げて話をされた方もいますが。このグループでこんな面白い話題も出たよとか、議事録にまとめたいと思います。それでその中で、このポイントって非常に大事だということで、次回の話し合いもまたグループ討議になる訳ですけども、話し合いのテーマに提案させていただこうと思うんですけども。まとめて提案というつもりです。全部を議事録に起こしていただく作業は大変でしょうけれども、宜しくお願いします。それでは次回までの作業はこんなふうに進めさせていただきたいと思いますが、何かご意見はおありでしょうか。今日はこんなふうにグループに分けて話をしたんですけども、これではちょっと埒が明かないとか、いやこれでなんとかいけるのではないだろうかとか、次回もう一回やって考えてみようだとか、いろいろあると思いますが。次回、今日の出席者の倍にはならないですけども、相当たくさんいらっしゃいますから。また、今日より盛り上がるだろうと思いますが。それではそういう段取りで次回の準備をさせていただきます。ご案内もさせていただきます。もう次回の案内をしますけれども宜しいですか。日程は前回確認をして、3月の26日ですね。火曜日で時間は同じ、この場所ということで。3月末、学校はお休みに入りますよね。春休みという感じですけども、これで宜しいでしょうか。前回、こんな感じでいいだろうということで案を出していただきましたので、これで開催させていただこうと思います。次回が5回目ですね。もう一度言います。次回5回目は3月26日火曜日3時からこの場所ということで、宜しくお願い致します。私の方からは以上です。北原さん。

北原委員：ただいま議事録の話がございましたけれども、中野市のホームページはまことに見づらくてですね、教育委員会をまず探さなければならない。それから議事録はどこにあるかなど。もうちょっとホームページを見やすいところに掲げていただくようお願いできないかなと思ひまして。慣れればどうということはないと思いますが。皆さん、たぶん苦労されていると思いますが。

会 長：ホームページ上の場所ですよ。多少、私もちょっと苦労しましたが見づらくはするんですけども。見やすく配置していただければ。ちょっとお金がかかるかも知れま

せんが。

湯本(一)委員：いいですか。ホームページからは見れるんですけども。今、プリントをもらっているんですよ。プリントをもらった方が私はいいと思うんです。

会 長：基本的には私も、もちろん送っていただいて、お金も手間をかけていただいているんですけども。ホームページ上で見るということ、例えば、それをコピーしてファイルに落とすとかということも気軽にできますから。そういう例を考えれば、ホームページ上でオープンになっているというか。

湯本(一)委員：若い人は持っているから。私はプリントでもらっているんだけど、かえってプリントでもらった方がいいのではないか。

事務局：はい。お話は分かりました。中野市はいろんなものが貼りついていて大変見づらいかも知れないですけども、担当課と協議はさせていただきます。それから最初にプリントで、それからメールでということでしたので、もしあれでしたら、修正を事務局にさせていただければ、切り替えをしますので宜しくお願いします。

柴垣委員：いいですか。ちょっと気になることがあります。この審議会の委員の中にPTAの代表とか校長先生の資格で来てる方も何人かいらっしゃると思うんですけども。あるいは地域の区長会の代表とかですね。そういうのはこの3月で役職が変わってしまえば入れ替えるのか、それとも最初に委嘱された人が2年間続くのか。どちらなのでしょう。

会 長：気になる場所ですね。すみません、私はちょっとよく分からないんですが。

柴垣委員：この辺りは教育委員会に答えてもらった方が。

会 長：ですかね。ついついしょっちゅう後ろを向くんですが。

事務局：いいですか。はい。お答えします。皆さんに委嘱された時には、審議会は2年間ということで、2年間お変わりないようにということをお願いをしました。今、お話のように特別な事情があるかも知れないですけど、またその時は、皆さんにお諮りをして入れ替えについてはお認めいただけてということで。教育委員会で委嘱し直します。ちょっと今のところ予測はできませんけれど。

柴垣委員：基本的には最初の委員の方が2年間続けてということ。

事務局：はい。2年間としてお願いしてまいりました。

会 長：はい。たしかに新年度で切り替えで異動される方とか、いろいろあるだろうと思えますけれども。それをちょっと。それはまた事務局の方で、必要に応じてアナウンスして下さい。それでは副会長さん。

副会長：はい。それでは閉会の言葉を申し述べたいと思います。今日は第4回。少子化時代を迎えての学校教育はどうしたらいいかというようなことで、3グループでお話をいただきましたが、各グループでは、それぞれの言葉で、それぞれの背景などを基に集中してご意見を出していただき、素晴らしい意見を頂戴しました。また、先ほどありましたように、私たちの方で次の会に備えさせていただきたいと思います。まだ3月26

日ということで期間がございまして、今日出た非常に印象的な内容もあったかと思いますが、それぞれお互いに個人的に調べたり研究したりして、少しでも準備をして次回に臨めたら一層いい討議ができるのではないかと。こんなふうに思いますが。そんなことを申し上げまして閉会と致します。本当にありがとうございました。

4 閉 会 (17:15)